



発行所 青山同窓会 新潟市関屋下川原町二 新潟高校内 印刷所 オリオン印刷機

# 昭和51年度総会の記

総会実行委員長 52回津野正平

辰の年で、総べて順調かと思つていたら、二月に海の彼方で火を噴いたロッキード問題のため、日斗により、案するより生むが易しのとおり、従来にないよい出席を得まして、実行委員一同ホッと胸襟を開いたところであります。

一年度総会は若い実行委員各位のアイデアとファイトが、企画、演出の推進力となって、まれにみる活気に満ちた祭典を開催できました。ことはまことにご同慶に堪えません。

実のところ初の試みとして、七月十八日(日曜)に開催を決定す手に、キャバレー香港をあとに、

賞品のジョニーウォーカーを手に入れた。津野正平

街へくり出して、同期の集いがそこそこで盛大に開宴されました。これも、代え難い、楽しいひとときでありました。

次回も、意義ある総会でありますようにと願ってやみません。

実行委員、各期幹事のご努力と事務局の陸のお力に心からの敬意を表し、役員各位のご高配に厚く御礼申し上げ、同窓の皆様への御平安を祈念致しまして総会記といたします。

(52回 津野正平)

## あけましておめでとうございます

青山同窓会会長 鍵 富清 一郎



雪の中で明けたこの新年は、まだまだ経済の停滞もつきそうである。早く立ち直りが期待されます。

政治や経済の面でも、いろいろ大変革があらわれて来ているようであり、我が同窓会も、東京では、若い人たちが大勢会を出てくるようになったとか、うれしき変化のきざしです。各方面で活躍する会員が、相寄り、相集いて語り合う中で、明日の発展への活ご健康をお祈りいたします。

力を得てもらいたいものです。東京の大学で学んだ後輩達が、ふるさと新潟へ卒業後もどつて来て、力を合わせ、不況ムードを吹き飛ばし、郷土と、母校の発展の為に今年もがんばりましょう。ご健康をお祈りいたします。

## 東京青山同窓会総会 幹事に若手も登壇



今年の東京青山同窓会総会(懇親会)は、去る十一月二十五日東京駅大丸デパート(鉄道会館)ルビーホールで約二七〇名の同窓生が集まり、盛大に行われました。

とくに今年は、学生や若い方が多く参加され、来賓は本部から副会長の阿部藤策先生、校長塩崎巴太郎先生、内山巖、上杉雅之両先生、それに岩田はす枝さんが来られました。また元校長の磯幸次郎先生も大変お元気にご出席されました。なお総会では、役員、幹事の改選が行われました。

(名簿は四頁に掲載)

ととなり心中恐惶の念に堪えませぬ。幸にして、積極活動的な役員諸兄と各学年常任幹事の協力を得て、更には又本日もお集りの皆様のご如き、友情に篤い多数の会員各位の御支援の下にその大任を果したいと存じます。

東京青山同窓会は年々歳々、百人から百五十人になる母校卒業生を迎え入れております。その大部分は進学者であり、卒業後は更に関東に定着することになるでしょう。家庭を離れ、故郷を踏み出して来たこれらの若人達に対して、温かい環境を与え、頼まれ甲斐のある存在となるようにとめることが本会の仕事のひとつと謂わねばなりません。新潟の母校同窓会に於ても夙にこのことを認識され、年々多大の御支援をいただいておりますことは、深く感謝致しております。一方在京の私共自身と致しましては、会の基礎を固め、団結を強め、先輩の委嘱に応え、後輩の期待にそむかぬ様、一層の努力精進を致したいと存する次第であります。

(以下略)

## 会長就任の辞

東京青山同窓会会長 34回 山崎重二郎

東京青山同窓会は昭和43年、新旧の同窓会が大合同し、新しく衣替えをして発足してから9年、多難なその草創期を了りました。

この間、在京実力期たる第30回卒の湊元克己幹事長、山添直会長、同木村逸郎会長の三先輩が果された御尽力を想い起し感謝するものであります。

これからは、こうして出来上がった基礎の上に立って、これを固めこれを発展させる段階に入るのであります。この秋に際し、不敏菲才の身を以て会長をお承けするこ

## 年頭随想

### 狐

60回 上 杉 雅 之 校 内 幹 事

★「狐は悪知恵にたけている」という例をみつけるのにさして苦勞はしない。

★それにつけても私が私淑する宮沢賢治は、狐が「こうかつで、わがしこい」動物だと思われている世間一般の見方に挑戦する作品「雪渡り」を書いている。私はこの作品を忘れることができない。

★人間の子供、四郎とかん子は、雪がすつかり凍って大理石よりも固くなったある日雪害をはいて野原に出る。ふと出合った狐の紺三郎とはしゃぐうち狐小学校の幻燈会に招待される。実は紺三郎、その会で狐に対する人間の誤解をときたいのである。「狐は人間をだますもの」これはまちがいであります。狐が人間をだますといわれている場面の数々。だが狐小学校の生徒の気がかりなのは用意したきび団子を人間の子供が食べられるかうれしくないかである。四郎とかん子は、その団子が馬糞ではないかとしばしばためらった後、きび団子をみんなペロリと食べあげたのである。そのおいしいこと、狐小学校生徒はそれを見てポロポロ涙を流しながら叫ぶ。

★「人間の子供がきび団子を食べた下さった。狐がうそつきでないことがわかってもらえた。」

★最近高校生という言葉が世間々々で聞かれる。それは必ずしも良くない。「半おとな」又は「無気力な世代」

★「暴走族」など、みな高校生の代名詞である。だが彼等を「なげやりだ」とばかりいっていいのだろうか。この寓話の狐に高校生の心情が表われてはいないだろうか。

★先日、朝早く、人と車の交通戦争がおきそうな街角で、厚い雪道の固い氷を一人の高校生が、なれない手つきで割っている姿を見て胸をスッコップでえぐる思いがしたのである。

★「狐は悪知恵にたけている」という例をみつけるのにさして苦勞はしない。

★それにつけても私が私淑する宮沢賢治は、狐が「こうかつで、わがしこい」動物だと思われている世間一般の見方に挑戦する作品「雪渡り」を書いている。私はこの作品を忘れることができない。

★人間の子供、四郎とかん子は、雪がすつかり凍って大理石よりも固くなったある日雪害をはいて野原に出る。ふと出合った狐の紺三郎とはしゃぐうち狐小学校の幻燈会に招待される。実は紺三郎、その会で狐に対する人間の誤解をときたいのである。「狐は人間をだますもの」これはまちがいであります。狐が人間をだますといわれている場面の数々。だが狐小学校の生徒の気がかりなのは用意したきび団子を人間の子供が食べられるかうれしくないかである。四郎とかん子は、その団子が馬糞ではないかとしばしばためらった後、きび団子をみんなペロリと食べあげたのである。そのおいしいこと、狐小学校生徒はそれを見てポロポロ涙を流しながら叫ぶ。

★「人間の子供がきび団子を食べた下さった。狐がうそつきでないことがわかってもらえた。」

★最近高校生という言葉が世間々々で聞かれる。それは必ずしも良くない。「半おとな」又は「無気力な世代」

★「暴走族」など、みな高校生の代名詞である。だが彼等を「なげやりだ」とばかりいっていいのだろうか。この寓話の狐に高校生の心情が表われてはいないだろうか。

★先日、朝早く、人と車の交通戦争がおきそうな街角で、厚い雪道の固い氷を一人の高校生が、なれない手つきで割っている姿を見て胸をスッコップでえぐる思いがしたのである。

# アメリカでコンニチワ 2人の同窓先輩

62回 新谷 稔

一九六九年の夏に渡米した折、私は一人の青山同窓の先輩とそこでお逢いした。

河原道夫氏(59回卒)とはシカゴで十幾年振りかで再会した。氏の父が主宰されていた「踊りの学園」という幼稚園に私が通ったこと、また戦時、佐渡へ疎開された家族と離れて、私の家に寄宿されたこともあったりして新中、県高時代に親しく付き合った先輩である。慶応大を卒えられてから、ニューヨーク市立大で学ばれ、以来アメリカに留まっておられた。ミシガン湖を眼下に見下す高層アパートの氏の部屋にはアメリカ人の奥さんと大きな犬が一匹いた。時のたつのも忘れて話し込め、飲み、さして失礼を腰を浮かした時「アメリカに来た時はカバンが一つだった。」とポツンと言われ、遠くを見つめられた横顔に日がな一緒に暮らしていた中学の頃の氏の面影がダブった。

ニューヨークでの私のホテルに、ドクターアオキ、青木忠夫氏(56回卒)が迎えに来られた日は記憶に鮮かである。アポロ11号で人類初の月面着陸の偉業をはたし無事帰還した三人の宇宙飛行士の街頭パレードが五番街で行なわれた日であったし、新潟ではお盆の日だったなど思いながらつまさきだつて、紙吹雪の中はこらしげに手をふって市民の歓呼にこたえていた三人の世紀のヒーローを見つめていた。その日だったからだ。博士の奥さんが私の縁つづきであったし、また「踊りの学園」でのプリマドンナでもあった関係で、河原氏ともよく知り合っていた。博士自身の中学時代を私は知らない。その頃青木宅はニューヨーク郊外にあり、家主の老夫婦が二階に住んでおられた。三才の時日本を発つた正人君、それにアメリカ生まれのトミー君のいたずらさかりの男の子二人いる大層にぎやか



去る十一月五日に行われた衆議院議員選挙に於て、参議院議員を

## 二区で最高点! 52回 佐藤 隆 氏 衆議院議員に当選

辞して、第二区より立候補の佐藤隆氏は、堂々最高得票をもって、見事念願の衆議院議員に議席を得られました。

激変する政情の中にあつて、参議院議員としての実績も豊かで、若さとバイタリティーのかたまりでもある同氏に、今後の一層の活躍を大いに期待したいところであります。

尚、同選挙には、第一区から同窓、(58回)福田 満氏も立候補されたが、おしくも当選には至らなかった。

な明るい家庭だった。私の為に博士自身一週間の休暇をとられ、市内のあちこちの案内、買物の手伝を、またボストンまでのドライブにも連れ出してくださった。私はそこに一週間近くもお世話しました。

七二年にも青木宅に向つた。その時は「MIH」(メディカル、インステチュート、オブヘルス)に勤められ、ワシントン郊外ベセスダに居をかまえておられた。車もビッグのワゴンから、ボルボに変わっていた。家庭では日本語で話し、子供達に忘れさせないようにと努められておられるが意に反し、正人君もトミー君も日本語は苦手になりつつあった。

去年の八月二十日ニューヨークの空港に到着したのは午前0時近くだった。もう休んでおられるだろうと思いつ、私は青木宅ヘダイヤルした「やあ、やあ、元気かね、こつちには来ないの。夏休みに子供達が新潟でお世話になって……」と話がつづいた。

河原氏とは、二年前東京でお逢いした。神宮前のマンションの氏の部屋に、アメリカ人の奥さんとシカゴで逢つた大きな犬が一匹いた。

### スポーツ最優秀校 男子表彰校 に内定

昭和51年度新潟高校生のスポーツ各分野に於ける活躍は大変めざましく、総合体育大会、全国大会、国体の戦績をもとに、県内より男

・女各一校選ばれる。新潟県高等学校スポーツ年間最優秀賞を男子表彰校として我々の母校新潟高校が受賞することが内定した。

フエニング部、バドミントン部、サッカークラブ、レスリング部、陸上競技部を中心に水泳部の活躍もこの栄光に加わっている。

昭和48年度につく快挙としてぜひ同窓諸兄弟の力強い御支援をいただきたく、「内定」ながら御報告し、スポーツには縁遠いと思わ

### 総会でのカンパ 十七万円余

七月の総会でインターハイ出場のための各部にカンパを募つた結果十七万二千一〇六円が集まり、各部への配分については学校側に一任することになった。生徒会で協

れがちな母校の現役生徒諸君のこの快挙を共に喜びあいたいものので、議の末次のような配分となり、各部に配分され、それぞれ活躍の資金の一部として使われた。

- ◎サッカークラブ(17名) 八一、〇〇〇円
- ◎フエニング(8名) 四五、〇〇〇円
- ◎バドミントン(2名) 一八、〇〇〇円
- ◎レスリング(1名) 一四、〇〇〇円
- ◎陸上競技(1名) 一四、〇〇〇円

昭和50年度青山同窓会収支決算書

収入の部		備 考	
繰越金	38,585	前年度繰越金	
入会金	619,600	全日制生徒1人 400円×1,348人=539,200円 通信制卒業生1人 1,200円×67人= 80,400円	
会費	1,407,000	同窓生年会費 1口 1,000円	
雑収入	61,890	預金利子 9,890円 広告収入 52,000円	
過年度収入	268,000	49年度会費として東京同窓会より受入	
合 計	2,395,075		

昭和51年度青山同窓会収支決算書

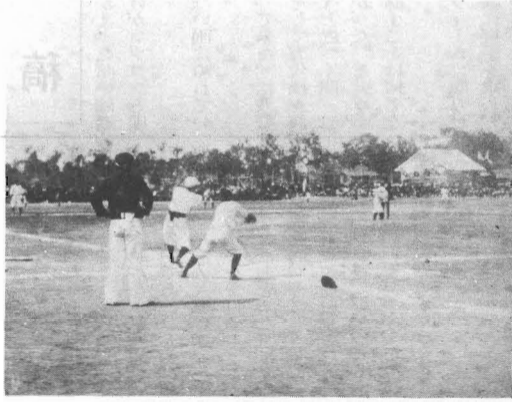
収入の部		備 考	
繰越金	194,251	前年度繰越金	
入会金	610,000	全日制生徒1人 400円×1,345人=538,000円 通信制卒業生1人 1,200円×60人= 72,000円	
会費	1,400,000	同窓生年会費 1口 1,000円	
雑収入	5,000	預金利子	
合 計	2,209,251		

収支差引残高 194,251円 (次年度繰越)

昭和51年5月12日  
上記の通り相違ないことを確認致します。  
監事 福 山 健 ◎  
。 沢 山 義 ◎

# 野球部の揺らん時代

10回 小柳篤二



明治二十八、九年頃寄宿舎の生徒達が集まって野球の真似事みたいなことをやっていた。又学校の焼跡(師範学校の焼跡で、今の新大医学部前の運動場)に通学生が多方キャッチボールやノックをしていたのが野球部成立の動機であった。

明治三十一年建川美次氏が高田中学から転校して来て野球熱を狩り立てたので急に部員も増し、技術も向上した。尤も当時は捕手がミットを持っているだけで他の八人は皆素手だったし、四球でなく五球で出塁するという原始的な状態であった。

明治三十二年三月建川氏が卒業して陸軍士官学校に合格し、十二月入校までフリーだったので、毎日放課後出校して選手を鍛え上げた。同年十一月三日の天長節に学校の許可を得て建川氏引卒の下に長岡に遠征し、同中学と試合したところが一回勝負に大雨となり試合を中止して翌日再試合をすることにした。そこへ学校から電報が来て弥彦の発火演習の帰途汽船の事故で溺死者が出たから至急帰校せよとのことで試合を断念して帰校した。これが新潟中学野球部の対校試合の嚆矢であった。当時の

選手は、投手小川郁平(3)捕手須貝太郎(4)一塁金子義長(3)二塁山田耕平(4)三塁中根圭策(5)遊撃山口鏗二郎(5)左翼小柳篤二(2)中堅河内茂太郎(5)右翼白鷗建(5)であった。

長岡中学の選手には山本五十六氏(当時は高野姓)がいたが短距離敏な遊撃手であった。

翌三十三年に入るや長岡、高田中学と対校試合を企画したが授業に差し支えるという理由で学校側の許可が得られず脾肉の嘆に堪えなかつた。然るに明治三十四年初め新潟県視学官湯原元一先生(前新潟中学校長)の卓見により県下各中等学校の連合運動会を開くことになり、野球、庭球、陸上競技柔剣道、中隊教練、発火演習まで行うことになった。そしてその第一回を新潟寄居浜に開催することになったのであるが砂地での野球

試合は到底完全には実施し得ないの応急処置として投手と捕手の間と各塁の処だけ赤土を盛ってお茶を濁した程度であった。新潟中学は高田と対戦し、惜敗した。

この年秋長野県上田中学が佐渡へ修学旅行の途次新潟に立ち寄り野球試合を申し込み、校庭で戦った。非常な接戦となり十四対十五点で勝を譲った。上田の投手は明治三十六年第一回早慶戦に於ける慶応の大投手桜井弥一郎氏であった。翌明治三十五年には長岡中学新発田中学と三、四回試合をしたが勝敗相半ばした。その後野球は追々盛んになり選手の層も若返って新進の意気たくましく、その上新潟商業にも野球部が誕生したので両々相拮抗して技術を磨いて行った。

昭和の初め新潟市山の下に新潟農園を創設し、第四銀行頭取白勢量作が社長となって球根栽培を企業化した。が、地域の狭いのと、近くに大工場があるなど、環境不良のため発展しなかつた。

その後チューリップの声価が追々高まり、切り花の販売、球根の輸出などに依る利潤が増大したので、県内各地で栽培されるようになって、県の主要産業の一つとなり、全国の三分の一を本県から産出するようになった。

その頃各県で「県の花」を選ぶことになったので、本県でも鑑賞より実益という面から、昭和十八年八月、チューリップを県花とすることに決定したのである。

時差の関係から、約三十時間のあいだ、飛行機のなかでちよっとまどろんだばかり、それがたまたま、あくる日は眼がいたみだして、眼をあけることもできない。カーテンをひいて室内を暗くしておく。トイレに起きて電灯をつけてただけで、まぶしくて、しかもずきずきと、終日臥床。

帰国してからも、こうした状態が週に二、三日は起こるので、とうとう過根を一掃しようと決心して入院した。

両眼を緑内障のため失明した画家、曾宮一念さんのずいひつ集に「泥鰌のわた」というのがある。中学時代の級友A君が私の緑内障を心配して贈ってくれた。「眼球を切り取るといっても、二方法あるのを知った。一つは眼球全体を摘出すること。もう一つは眼球を残してその内容を除去する

内容除去である。私の場合は後者である。「方法は白眼と黒眼の境界あたりを切り抜いて内容を掻き出すのだぞうだ。匙の掻き出しが終る頃から痛み始め、その後縫合となるかなりの痛みとなった……。」

友人の親切から、私は手術についてかかなりの知識をもっていた。私の場合は麻酔薬のさじ加減が多かつたためか、手術中はまったく痛痒さを感じなかつた。それから、昼食抜きで手術が行われたいいみで「遊走」かと推測して看護婦にたずねると、「窓が有るですよ」という。「有窓義眼」である。無色透明の、コンタクトレ

いたかかなりの知識をもっていた。たつと先生は「今日はイウソウギガンを入れましょう」という。ギガンは義眼でわかるが、「イウソウ」とはなんだろう。「動く」というイミで「遊走」かと推測して看護婦にたずねると、「窓が有るですよ」という。「有窓義眼」である。無色透明の、コンタクトレ

ズの親玉みたいなヤツになるほど二つも孔があいている。この孔から達合した眼玉の奥をのぞいて、きずのなおり具合を見るためらしい。こわいものみたさに私も点眼の折、鏡で見たが透明の義眼の底に眼玉の内部がうつるのか、兎の眼玉のようにマツカで、まことに氣味がわるい。妻や娘は顔をそむけてしまう。

手術後三週間ほどして正式の義眼を入れてもらうことになった。医師は有窓義眼をはずして、こんどは本物そっくりの瞳のある義眼と取り替え、そして理髪屋が、客に刈り具合をたしかめさせるように鏡を見せてくれた。赤眼大王のようだった眼がきれいになっていった。ふと私は「画龍点睛(がりょうてんせい)」という古い言葉を思い出した。

大正十三年東京の或る農畜商會がオランダから十四万個の球根を輸入し、これを中蒲原の小合村、西蒲原の白根町附近に売り込み栽培を奨励した。

昭和の初め新潟市山の下に新潟農園を創設し、第四銀行頭取白勢量作が社長となって球根栽培を企業化した。が、地域の狭いのと、近くに大工場があるなど、環境不良のため発展しなかつた。

その後チューリップの声価が追々高まり、切り花の販売、球根の輸出などに依る利潤が増大したので、県内各地で栽培されるようになって、県の主要産業の一つとなり、全国の三分の一を本県から産出するようになった。

その頃各県で「県の花」を選ぶことになったので、本県でも鑑賞より実益という面から、昭和十八年八月、チューリップを県花とすることに決定したのである。

# 画龍点睛

30回 山添直

# 県花 チューリップ

10回 小柳篤二

寄稿

深夜の静まりかえった暗い舗道に二人の靴音だけがゴツゴツと虚ろに響いた。

町は初冬の冷たい雨にぬれていて。寒さが急に襲って来た。松波町から寓所通へ、そして万代橋を渡

がゴットンともうのうげに動き出した時、私はあ、これで俺の青春も

何か大切なものをこの町に置いて遠くへ旅立つ様な感傷と、自分の力ではどうにもならない運命の様なものへの敗北感、それに、もうどうにでもなれというニヒルな絶望感が一瞬織りまざって私を包んだ。

ことを知らされた。電話口に出たあのひとは一寸驚いた様だったが直ぐに口早に別れたあと結婚するまでの経緯を話し、今夜一しよに夕御飯でも誘った。私の思考力の失せた頭の中であのひとの電話の声だけがぐるぐる駆け廻った。

私はその誘いを受けるもことわるも同じことだと思った。一しよに夕食を摂る間、今はもうすつかりN日報の第一線花形記者になっ

ていたのは、取材の苦心や裏話やらを早口でしゃべった。然しあの新潟駅で別れてから今日ま

での私のことについては遂に終いまで何一つきこうとはしなかった。私が新潟中学へ転校して来て間もなく町で珍らしい名の表札をみかけた。それは小学校同級の女生徒の姓と同じ名だった。その子

還らざる光芒

ある青春の追憶

48回 小池 清 泰

ムードではなかった。私は何日か考えた末手紙を書いて投函した。間もなく返事が来た。その子は正しく小学校同級のその生徒だった。私達はそれから卒業までの約二年間、時々家に遊びに行ったり手紙を交したりした。

卒業するとあのひとは京都の女大へ、私は東京で浪人生活の後東京外語へ入った。私の家が新潟から東京へ移った為私達は会う機会がなかったが時々手紙を交していた。

そうしてあの学徒出陣となったのだ。私は入隊の前はどうしても一度あのひとに会っておきたかった。二年半振り再会した私達は過ぎた年月を忘れ色々なことを語り合った。話している内に四年前のあの出会いが二人にとりかけがえのない貴重なものだったことを知った。私は次第に別れるのが辛くなって来た。何となく入隊したらもう二人が会うことはない様な気がしたからだ。

あのひとも同じ思いだったのか、深夜の町を駅まで送りたい、それも歩いてと云った。こうして私達は黙って駅まで歩いたのだ。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ 食事をしながらしきりにしゃべるあのひとの話を聞いていて、今

はもう一刻も早くこの場所を去りたいと思った。食事が終ると私は別れを告げて外に出た。何かしら空しかった。

戦争は国士を荒廃させた。然しそれだけではなかった。戦争は多くの人々のころろまで

問も、恋も肉親もすべて無に帰してしまおう。国は勝利をかちとる為に、民族の生存の為に色々を市民に要求する。そうした体制の中に個人の自由が、学問が、恋が埋没させられてしまっても致し方がないことだった。多くの人が肉親と別れ、若者の自由と青春が奪われ、恋がひき裂かれたとしてもそれは仕方ないことだった。

べもない悲しいできごとだった。どうにもならなかったのだ、俺達

は不幸な年代にめぐりあわせたのだ、唯それだけのことなのだ、私は歩きながら少しづつ、自分をとり戻していた。それは一種のあきらめにも似ていた。私は歩きながらふとあのひとが初めてくれた手紙の便箋から微かに漂って来た香水の匂いを思い出していた。ほんの一寸胸が疼いた。然し歩いている内にまるで嘘の様にあのひとのことは頭の中から薄れていった。足

はいつか水道町から松波町へ、そして念仏寺裏から母校の運動場の方へと向っていた。

嗚呼青陵に正気あり」と応援歌を歌った。軍事教練は厳しく町は一日と戦時色を深めていった。その様な中で私達の青春は健やかに息づいていた。希望と不安、期待と絶望とがいろいろまざったあの種の感情でも似た少年の日の想い草の匂いにも似た少年の日の想い草。それらの日々はまるで夕昏れの微光の中に一瞬輝いて消え去った。余りにも呆気なく消え去ってしまっ。今どんなに大声を挙げて呼び止めても、それは振り向きもせずどんどんと歩度を速めて遠ざかってゆく。もう手の届かない遥かな彼方に去ってしまった青春。然し、こ、になつ

かしい町がある。まぎれもなく俺が青春を送った町が。あのひとしい学び舎も昔のま、の姿を夕暮の静寂の中に横たえている。

先程あのひと、別れた時の冷えたころは今はずっと温まっていた。私は母校の校庭を見下す小道のポプラの根元にいつまでも腰を下していた。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ あれから三十年がたった。その間あのひとの消息を聞くことはなかった。何年に一回かあの町を訪れる機会があった。その度に駅に降り立つ私の胸は熱くなるのだった。思えば私達の年代の青春は痛ましい青春だった。若し軍隊という全体主義体制の秩序の中にも青春は有ったのだと論ずる者がいたとしても恐ろしく誰もうづかないだろう。だとしたら、私達の青春は何と短かかったことだろう。田中美知太郎博士はこう書いている

「青春が貴いとされるのは、それが余りにも短かくうつろい易く傷つき易い故にである」と。さなきだに短かい青春と早々に別れてしまった私達。旧制新潟高校の寮歌に

うつろい易きが 故に青春は貴しと 説きし師ありき青春は皆く 戦に学徒召さると聞きし青 逝く青春に別れ告げにき

東京新役員決まる

任期三年 五十四年まで

- 会長 山崎重三郎 34回
副会長 中村信一 35回
副会長 南正時 40回
幹事長 河内直治 38回
副幹事長 高田信川 40回
副幹事長 田中豊男 41回
副幹事長 五十嵐真夫 50回
常任幹事 山崎常吉 60回(総務)
常任幹事 坂井俊一 64回(総務)
常任幹事 佐藤武行 65回(総務)
常任幹事 渡辺泰彦 68回(総務)
常任幹事 石黒久 73回(総務)
常任幹事 吉岡浩 82回(総務)
常任幹事 内田文雄 49回(渉外)
常任幹事 佐藤良策 53回(渉外)
常任幹事 大島洋一 59回(渉外)
常任幹事 齊藤信果 71回(渉外)
常任幹事 梅田悌次 43回(会計)
会計監査 竹村昭三 53回
新事務局 五十二年一月より
〒160 東京都新宿区三栄町25
三栄ハウス二〇三
四谷総合法律事務所内
東京青山同窓会事務局 渡辺泰彦
電話 03-355-1895(七)
東京事務局からお願い
ただいま会員名簿作成の準備中です。住所、勤務先、変更のさいはもとより、消息等を事務局までご連絡いただければ幸いです。会員各位のご協力を切にお願いいたします。

# 現代の高校生(その一) マスコミと高校生

田中正俊  
新潟高校三年

現代の我々の世代は、よく「無主義」とか「シラケ世代」などというこぼで表現されるようだが、ぼくはどうも気に入らない。かなり以前から続いているものに「青春」とか「受験地獄」とかいふのもあるが、これもはたから聞いていると何となく気恥ずかしいような気持ちになり、違和感を感じてしまうのである。マスコミの持つ物事の全体をとらえずにどうでも良いような末端を好んで抽出精製し、それを新たに培養するといったシステム、これらのことばはどれもそついった過程でイメージ化された、現実の虚像であるように思われる。

だいたい、青春を盲目的に讃美するというのは、いつごろからの風潮だろう。最初のうちは、もうすでに青春などとは何の関係もなくなった老人が「若いころは良かった」という懐古趣味的な発想で言い出したのではあるまいか。それがいつのまにか今では「青春の真只中」と自任する若者が何かあるたびに「これが俺の青春なんだ」とわめいて嬉しがっている。テレビの青春ドラマや怪しげな三文小説がこういった傾向に拍車をかけている。しかしどうも青春というものには語れば語るほど、安っぽく軽薄なものになってしまふようである。このことは青春についてばかりではない。自分たちのことを言葉で規定してしまったとき、もうそれは現実そのものからは剥離しはじめていく。そして今度は現実を言語にひきもどそうとするとき、現実からロマンが消え、シラケてしまふのだ。

最近、糸魚川事件などで高校生の集団非行が発覚し、女高生の売春が新聞を賑わせたが、あのことでにしても「何をいまさら……」という感じだし、そついった非行なども高校生という全体にとつてはとるに足りない末端にすぎないはずである。

ところで、このように高校生というものが軽薄で興味本位な立場でとらえられるのは、必ずしもマスコミだけの責任ではあるまい。高校生そのものに起因する根本的な性質が図らずしてマスコミ的であり、末端肥大症的なのではないだろうか。

高校の存在理由というものを考えてみると、容易に二つの立場から解を得ることができる。一つは目的としてであり、一つは手段としてである。目的としての高校は

小学校中学校の義務教育と本質的に等しい。学問のための勉強であり、生活のための学校生活ということになる。一方後者は、高校は出世のための必要経費であり、大学へのステップとなる。そうすれば必然的に受験のための勉強、単位修得のための学校生活ということになるだろう。

さて問題はこの目的と手段との相関関係である。この二つは同時に相容れない。従つて我々は意欲的な生活のために、ある時には相互の調整をとりながら日々を送らなければならないわけだ。例えば「会員の関心がうすい」とオウムのように繰り返し叫ばれる生徒会。これは単位修得の学校生活であるが故に、積極的に生徒会活動に参加して生活を向上させようという気にならないのだ。それと

は逆に毎年充実し、意欲的な青陵祭。ここには生活を充実させるといふ、目的としての高校が凝縮している。

こうした目的と手段の矛盾した共存の中に高校生活が成立しているために、我々は自然と、あまり本質には触れられず末端を誇張するようになる。そしてこのことがマスコミ的、復讐的、非本質的な世間の評価につながるようになるのである。

いづれにしても我々は完全に保護された出世コースを歩まないかぎり、将来もこの目的と手段の不連続性に悩まされ続けるだろう。しかし現実から逃避したり、どつちつかずの不連続部分で萎縮してしまつては、決してならないはずである。(青陵21号より転載)

# 現代の高校生(その二) 女・女・女・女の気持ち

星野雅絵  
新潟高校二年

最近女子東大生が歌手になるとかマスコミが騒いでいるようだ。あれが東大生であるから騒ぐのであって、外語大とか早稲田だったあても騒がないと思つたのです。おもしろ半分おもしろ半分——それだけ。ところが私の知っているある三年生の方は、

「あの女が東大はいるかわりに、

は逆に毎年充実し、意欲的な青陵祭。ここには生活を充実させるといふ、目的としての高校が凝縮している。

こうした目的と手段の矛盾した共存の中に高校生活が成立しているために、我々は自然と、あまり本質には触れられず末端を誇張するようになる。そしてこのことがマスコミ的、復讐的、非本質的な世間の評価につながるようになるのである。

いづれにしても我々は完全に保護された出世コースを歩まないかぎり、将来もこの目的と手段の不連続性に悩まされ続けるだろう。しかし現実から逃避したり、どつちつかずの不連続部分で萎縮してしまつては、決してならないはずである。(青陵21号より転載)

「女が大学について何になる」ピントヘルのおばあちゃん達がきいたら怒りだすだろうな。けど世間じゃ通用するこの言葉。この言葉で大学進学に涙をのんだ女の人が何人いたでしょう。悩み相談にあるではないか。解答者は、「学歴だけがすべてではありません。あなたが本当に学びたいという気持ちがあるなら、大学に行かなくてもよいのです。自分で勉強しようと思えばいくらでもできるのです。」

「女が大学へ行くことは国費のむだ使いなのではないか、おまえさんはずいぶんこの学校へ来たんだときから、進学したいからと口では言いながら実は、どこの大学へ行くつもりなのか決めてもなく、ただ中学を卒業したからという理由でこの学校へ来たのです。ほんとにこの学校にはいらたかったのに落ちてしまった人には悪いと思う。しかし入ってしまったんだからひらきなおつて学校にかよつていよう。新潟高校を男子校にすべきだ。女はいらん。」という人の言葉も、はいってからそんなこと言われたつてはかたがたいじやないの——とこれもふてぶてしく。女のずうずうしさか?

「女が大学について何になる」ピントヘルのおばあちゃん達がきいたら怒りだすだろうな。けど世間じゃ通用するこの言葉。この言葉で大学進学に涙をのんだ女の人が何人いたでしょう。悩み相談にあるではないか。解答者は、「学歴だけがすべてではありません。あなたが本当に学びたいという気持ちがあるなら、大学に行かなくてもよいのです。自分で勉強しようと思えばいくらでもできるのです。」

「女が大学へ行くことは国費のむだ使いなのではないか、おまえさんはずいぶんこの学校へ来たんだときから、進学したいからと口では言いながら実は、どこの大学へ行くつもりなのか決めてもなく、ただ中学を卒業したからという理由でこの学校へ来たのです。ほんとにこの学校にはいらたかったのに落ちてしまった人には悪いと思う。しかし入ってしまったんだからひらきなおつて学校にかよつていよう。新潟高校を男子校にすべきだ。女はいらん。」という人の言葉も、はいってからそんなこと言われたつてはかたがたいじやないの——とこれもふてぶてしく。女のずうずうしさか?



## 青山棋院 開催のご案内

### 多数の参加を期待!

日時 一月三十日(日) 正午から午後六時まで  
場所 新潟高校青山会館、洗心、天真の間  
経費 一、〇〇〇円(茶葉、賞品代)  
競技 特別メンバーを見た上で、A、B、Cなどのグループ

参加希望者は電話またはハガキで、卒業年、氏名、段級位を新潟高校(6)―1232 内山蔵または同窓会係までお知らせ下さい。

不況の折、女子大生の就職は困難だとか。どうせ腰かけだろうからとか、学歴をかさにきるとか、男性は女には結婚という逃げ道があると言ふ。確かに結婚は女の逃げ道、しよせん女は家庭にとじこもるしかないのか。だから国費のむだ使い——そんなのはいやである。私は家庭にとじこもつて夫や子供の世話にあけてくれとをいつていくなんてゾツとする。こう言つたらある友人は、さも驚いたように言った。「あのね、結婚は一人じゃできないのよ。」ガーン、言われてみれば確かにそうである。

(青陵21号より転載)

①ピンクヘルは「中ピ連」の象徴

結局なんだかんだといつても自分は女なのかなあと、つくづく悲しくなつてしまふのである。みじめだな。

# 33 会員 健在なり

## 永井行蔵

いつも優雅に「山茶会」とは誰がつけ初めた名であろうか、三十三回同期生の集いである。卒業は大正十五年三月、その年の暮に昭和と改元、いつしか五十年の歳月が流れた。新潟交通佐野専務の肝いりで、卒後半世紀の記念集会は新涼九月十八日、鍋茶屋で開かれた。東京、鎌倉から、更に秋田か

らも馳せ参じて総勢二十三名(写真に、皆それほどこくなつてはいた猛者ばかり。佐野幹事苦心の名簿によれば、通知発送六十七、逝去六十三、住所不明十五、「よく集つた」という者あり、「もつと来るかと思つた」という者あり。ただ懐かしいのだ。とに角楽しいのだ。膝を交え盃を傾けて往時を語れば、白髪禿頭瞬時にして青山健児の昔にかえるから不思議である。清水幹事の手配による古町美形の踊りに唄に酒興は一入、快い酔心地である。社長あり院長あり、校長もいれば僧正もいる。皆えら

りも馳せ参じて総勢二十三名(写真に、皆それほどこくなつてはいた猛者ばかり。佐野幹事苦心の名簿によれば、通知発送六十七、逝去六十三、住所不明十五、「よく集つた」という者あり、「もつと来るかと思つた」という者あり。ただ懐かしいのだ。とに角楽しいのだ。膝を交え盃を傾けて往時を語れば、白髪禿頭瞬時にして青山健児の昔にかえるから不思議である。清水幹事の手配による古町美形の踊りに唄に酒興は一入、快い酔心地である。社長あり院長あり、校長もいれば僧正もいる。皆えら



我が第48期会は年一回の例会を新潟市内と市外で隔年に開いておりますが、今年は偶々市外の年に当り、去る9月25日水上温泉ホテル聚楽に於て開催されました。市内在任者と東京方面在任者双方の参会の便をはかる為、一昨年の越後湯沢に引続いて上越沿線に設営

## 第48期会 東京7名 地元20名 水上温泉で

〔出席者〕前佐々木勲・福山忠司 安保洋一・熊福七・藤島寛・阿部昌雄(中)永井行蔵・小林信二・佐野賢一郎・川上英三・星順司・堀川秀一・池啓吉(後)木村守・佐藤岩男 清水弥壽雄・川村欽治・大坂清・平石恒夫・山田平五郎・樋浦貞雄 (写真外) 広瀬久・丸山力三



された訳です。今年は数学の藤田佐市(やせ馬)先生にご出席をお願いした所大変喜んでご承諾下さいました。今回は9月下旬の土曜日という日取りのせいか、旅行遠足、運動会等の行事と方寸合った者が多く、結局地元20名、東京7名の出席にとどまりましたが、中には昭石の小池君の如く遠々四国の高松から駆けつけてくれたり、或は古屋君の如く一昨年の会に初めて出席し、その懐かしさ、楽しさが忘れられず海外出張の予定を態々変更して参加してくれたように、この会に寄せる級友諸君の熱意が

年々昂まつておる事は実によるこぼしい限りに思います。三々五々集まつた参会者の中には早速雀卓を囲む者もあり、或は35年振りの再会に肩をたいたいてなつかしみ合う風景も見られるなど交歓が盛り上がりつつあるうちに定刻を迎えました。幹事の開会の挨拶につづいて物故会員の冥福を祈つて黙祷、大家幹事長の近況報告藤田先生のご挨拶、カンパイと型の如く宴会のコースに入り、夫々「とし」と共に円熟味の加わつたスピーチによる自己紹介が一巡する頃には宴も最高潮です。口にごそ出さぬもの、これをやりたいからこそこの会に出るんだと誰しも内心期待していた応援歌が愈々始まり、緒々顔の壮漢が紅顔の昔に想を馳せながら「霞たなびく」から「つわもの」はでは敗戦歌までとび出す始末。校歌、万才を以て無事宴を閉じました。散会后は夫々部屋へ集り麻雀で夜を徹すグループあり、過ぎし青春よりこのし方を語り明かす者あり、実に有意義な一夜を過ごし、26日の朝、再会を約して南と北へ袂を分つた次第です。(大橋記)

昭和三十四年に、卒業したG組の主任は遠藤久雄先生であった。氏はこの春四月に、六日町高校の

教頭に昇任されたので、それをお祝して、級友集まり、「一杯飲もう」ということになり、新潟在住の、石田、戸松、の両名で呼びかけた。遠藤先生の付添父兄(?)ということで、同じ国語で我々がお世話になつた、野呂先生も出席下さり、ごらんの写真の面々が集まつた。八月十九日、生粋での一夕と相なつた。案内状を送つたら、出れないう者が寸志を送つてきたので、先生に、ささやかな記念品をお送りした。先生のごあいさつの中に、今年は丁度教職二十五周年目であり大変ありがたいとお話もあつた。写真のうち、見田君は石川県七尾から、竹内君は富山から、わざわざかけつけてくれたのである。又、先生の一年の時の生徒である君英夫君、高橋仁君も参加され、和やかな会であつた。又機会を見て集まろうやという事になり、次回を期して散会した。



いので停滞しようと思つた。金員泊ることとなつた。そこで、じっくりと腰を落つけて、ガツチリと飲みかつ語り合つた。それらの話の中で、数年来の計画であるが、どこか我らのシンボルたる山小舎を作りたいとの希望が再燃し、若い実行力ある諸君に具体案を練つてもらふこととなつた。宴は後で後各部屋でマジジャン卓を囲んだり、久々のんびりした会合であつた。明けて三日朝、はげしい雪の中をバスで新潟まで送つてもら

久々の雪の正月明けて二日、学校町のエコーの店内狭しと集まつて来た山岳部OB会の面々を迎えに出たはずの岩室温泉大橋屋のバスは、定刻五時をすぎても仲間あられない。約一時間ほどおくれ六時に新潟発、現地着は七時すぎであつた。早速、ナベを囲み飲み放題の新年会が始まつた。山岳部は恒例一月二日をもつて例会として行っているが、正月で、市内の店は休みが多い。そこで今年は市外へ出たわけである。それと四千円で飲み放題という大橋屋も気に入つたわけである。そんなわけで今年は二十三名の参加のもと、各自の自己紹介から始まつた。開会が車の都合で遅れたのだから、終り時間をのびさせてくれと、ガツチリ渉外係が交渉しあげくのはにて、今夜は天候が悪いので停滞しようと思つた。金員泊ることとなつた。そこで、じっくりと腰を落つけて、ガツチリと飲みかつ語り合つた。それらの話の中で、数年来の計画であるが、どこか我らのシンボルたる山小舎を作りたいとの希望が再燃し、若い実行力ある諸君に具体案を練つてもらふこととなつた。宴は後で後各部屋でマジジャン卓を囲んだり、久々のんびりした会合であつた。明けて三日朝、はげしい雪の中をバスで新潟まで送つてもら

## 山岳部OB会

## 67回G組

## 遠藤先生を囲み

### 富山・石川からも集まる

# 昭和51年度青山同窓会費納入者

(4月より12月まで納入済のもの)

未納の方は3月までに納入下さるようお願い致します。

期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	
18回 繁治郎	北田 村太 市郎	星野 忠五 郎	像重 達三 雄	倉児 田玉 亨	小 河小 河小 河	信 由 夫 男	前 田 川 貞 正	丹 野 羽 正 樹	三 国 文 治 郎
19回 清一郎	文与 藤三 郎	野間 山丸 本	三 剛 英 芳	賢 吉 英 達	河 柳 小 勝 神	由 虎 利 準	川 登 竹 正 敏	末 正 正 三 崇	井 野 平 彰
21回 武吉郎	村 文 三 郎	野間 山丸 本	三 剛 英 芳	賢 吉 英 達	河 柳 小 勝 神	由 虎 利 準	川 登 竹 正 敏	末 正 正 三 崇	井 野 平 彰
22回 武吉郎	村 文 三 郎	野間 山丸 本	三 剛 英 芳	賢 吉 英 達	河 柳 小 勝 神	由 虎 利 準	川 登 竹 正 敏	末 正 正 三 崇	井 野 平 彰
23回 武吉郎	村 文 三 郎	野間 山丸 本	三 剛 英 芳	賢 吉 英 達	河 柳 小 勝 神	由 虎 利 準	川 登 竹 正 敏	末 正 正 三 崇	井 野 平 彰
24回 武吉郎	村 文 三 郎	野間 山丸 本	三 剛 英 芳	賢 吉 英 達	河 柳 小 勝 神	由 虎 利 準	川 登 竹 正 敏	末 正 正 三 崇	井 野 平 彰
25回 武吉郎	村 文 三 郎	野間 山丸 本	三 剛 英 芳	賢 吉 英 達	河 柳 小 勝 神	由 虎 利 準	川 登 竹 正 敏	末 正 正 三 崇	井 野 平 彰
26回 武吉郎	村 文 三 郎	野間 山丸 本	三 剛 英 芳	賢 吉 英 達	河 柳 小 勝 神	由 虎 利 準	川 登 竹 正 敏	末 正 正 三 崇	井 野 平 彰
27回 武吉郎	村 文 三 郎	野間 山丸 本	三 剛 英 芳	賢 吉 英 達	河 柳 小 勝 神	由 虎 利 準	川 登 竹 正 敏	末 正 正 三 崇	井 野 平 彰
28回 武吉郎	村 文 三 郎	野間 山丸 本	三 剛 英 芳	賢 吉 英 達	河 柳 小 勝 神	由 虎 利 準	川 登 竹 正 敏	末 正 正 三 崇	井 野 平 彰
29回 武吉郎	村 文 三 郎	野間 山丸 本	三 剛 英 芳	賢 吉 英 達	河 柳 小 勝 神	由 虎 利 準	川 登 竹 正 敏	末 正 正 三 崇	井 野 平 彰

## 編集後記と事務局たより

★一九七七年は雪一色の中であけました。数年つづきの不況のまま早い立ち直りの期待されるころですが、同窓各位の各方面での活躍を先ずお祈りいたします。

★昨年暮の衆議院選で第二区で佐藤隆氏が参議院よりくらがえされ今後の活躍が多いに期待されるころであります。

★東京での同窓会に、若い校友諸君の出席が多いと聞いております。ふるさとや母校をはなれて、勉強や勤務の毎日の中で、一夕、先輩しばしのいいこと、明日への活力の源として、同窓会の存在の意義があるのではないのでしょうか。

★会報の意義についても、あれこれいわれながら、ここに24号をお届けすることになります。集会の案内を主として、会員の各地からの便りを主として、編集を心がけております。青春のひとときをこのように過したの思い出、母校を出て何年、今このように生きております等々、つれづれに消息をお寄せいただきたく、お願いいたします。会報は現在、会費を納入下さっている方々と、母校に学ぶ後輩達に、一月、七月の年二回配布されております。

★同窓の消息等については、変動の度に母校内事務局宛にお知らせ下さい。将来の名簿の爲にも、★最後に毎度の事ながら、会費の納入のおねがいと、新規会費納入者の開発にご協力下さい。

